ニュースリリース

２０２６年１１月５日
ＤＡＩＫＥＮ株式会社

外装木材向けの高耐候性塗装技術を確立

国産材を活用した屋外用途向け木質建材の提案を開始

DAIKEN株式会社（東京都千代田区、社長：清洲忠洋）は、このたび、外装木材向けの高耐候性塗装技術を確立し、国産材を活用した外構ルーバーやフェンスなど、屋外用途向け木質建材の提案を開始しました。本技術は、厳しい屋外環境にも耐えうる性能を備えつつ、木目の美しさを活かすクリア塗装にも対応できることが特長です。当社は、これまで内装材を中心に進めてきた国産材活用の取り組みを、外装・外構分野にも拡大することで、都市空間における木材利用の拡大に貢献してまいります。



外装木材施工イメージ

【背景・経緯】

脱炭素社会の実現や森林資源の循環利用への関心が高まる中、建築分野では木材利用の拡大が求められています。特に都市部では、内装にとどまらず、外装・外構を含めた空間全体の木質化が、景観の向上や快適な空間づくり、さらには炭素固定の観点からも注目されています。一方、屋外で使用される木材には、紫外線や風雨、温度変化などの過酷な環境に耐え得る性能が求められます。そのため、環境負荷の低減やデザイン性に優れる木材であっても、外装・外構用途では耐候性の確保や維持管理が課題となっていました。

こうした中、当社はこれまで、床材や壁材などの内装材を中心に国産材活用を進めるとともに、外装・外構分野においては、マルチング材や緑化材などの木質ファイバー製品を展開してきました。さらに、屋外用途に対応する木材・塗装技術の研究開発を進め、塗料メーカーなどの協力を得ながら、塗装剤の配合検討や性能評価を重ねた結果、基本構想から約10年をかけて今回の技術を確立しました。外装木材では、紫外線の影響を抑えるため、一般的に濃色塗装が採用される傾向があります。一方、今回確立した技術ではクリア塗装にも対応しており、木材本来の木目や質感を生かした意匠表現が可能です。現在、当社は協力会社と連携し、本技術を活用した外装木材製品の提案を進めています。

今後は、既存の木質ファイバー製品とあわせて、外装・外構分野における木質提案を一層強化し、国産材の新たな用途開拓を推進してまいります。これにより、木材の付加価値向上と利用領域の拡大を図るとともに、森林資源の循環利用、地域経済の活性化、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

以　上

※ここに掲載されている情報は発表時のものであり、ご覧いただいている日と情報が異なる場合があります。あらかじめご了承ください。